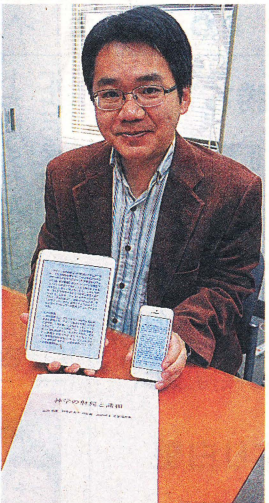


# 学位論文に電子化の波



卒業論文集と電子版を手にする小原克博教授

学位論文の電子化が進んでいる。今年度から原則、博士論文全文のインターネットでの公表が義務づけられた。卒業論文を電子書籍にする取り組みも出始めた。

文部科学省によると、1995年3年にできた学位規則は、博士の学位を授与された者は1年以内に論文を印刷の形で公表するように求めている。規則は今年改正され、4月以降は公表方法がインターネットに変更された。世界で初めてという。

公表は個人のホームページではなく、各大学などがつくる学術論文の公開システム「リポジトリ」の利用が原則。リポジトリのない大学では当面、公式ページでの公表となる。

現在、全国約770大学のうち博士課程があるのは約400。うちリポジトリがあるのは

半数程度で、今後、各大学は早急な整備が求められる。同省大学振興課は「インターネットでの公表は、博士論文を広く公表するという目的をより効果的に達成するため、博士論文の質を保証する意味合いもある」という。

一方、同志社大では3月、小原克博・神学部教授のゼミ生による卒業論文集「神学の射程と諸相」が電子書籍化された。アマゾンのKindル版で卒論集の電子出版は日本初という。

「ワインとキリスト教をめぐる考察」「沖繩における宗教の共生」「出生前診断をめぐる神学的考」など14編を収め、価格は1000円。

小原教授は「学生にいい緊張感が生まれ、励みになる。読む人は今の大学生の関心がわかる」と話し、今後も続ける予定という。

(小林正典)